

令和8年9月2日
市立旭川病院

令和7年度

市立旭川病院
業務・決算報告

～市立病院ってどんな病院なの？～

令和8年(2026年)9月

市立旭川病院

目 次

は じ め に	1
I 市立旭川病院はどんなところ？	2
1 どんな病院なの？	2
2 どんな特色があるの？	4
II 市立旭川病院の経営状況はどうなの？	5
1 令和7年度の決算は？	5
2 医療の提供による収支はどうだったの？	6
3 器械の購入などの設備投資はどうだったの？	7
4 令和7年度は市立病院でどんなことがあったの？	8
5 経営状況の推移はどうなの？	9

市立病院のシンボルマーク



ハートの形のピンクとオレンジは、大人と子どもを表しています（患者さんやご家族）。ハートを囲む緑の輪が、病院で働く職員を表します。ピンクは「子どもを守る大人の優しさ」を、オレンジは「子どもの元気さや明るさ」を、緑は「森のような深い優しさ、温かさ」を意味します。

病院は、不安な気持ちでいっぱいな患者さんやご家族を温かな優しさで包み込み、心も体もケアしてくれる場所というイメージを表現しています。このマークのコンセプトは、「包み込む優しさ」です。

はじめに

市立旭川病院は、診療科25科、病床数365床を有する公立の医療機関として、令和7年度では入院で延べ約10.1万人、外来で約20.7万人の患者を診療し、地域医療の提供に大きな役割を果たしています。

一方で、患者数はコロナ禍以前の状態までには戻っておらず、原材料・燃料などの物価高騰に加え、労務単価の上昇などによる費用の増加により、病院経営にとって難しい状況となっています。

当院では令和7年4月に、16年ぶりに整形外科病棟を再開し、高齢者人口の増加など地域の医療需要に対応した医療体制を整えてまいりましたほか、地域の医療機関との連携強化や新たな診療報酬の加算の取得、委託業務の見直しや医療用材料の適正使用など経営改善に向けた様々な取組を進めています。

当院の基本理念と基本方針の精神に則り、市民の皆様が安心して暮らすことができるよう職員が一丸となって努力を続けています。

この冊子は、令和7年度の決算内容を中心に作成しましたが、当院の経営状況のほか、当院の役割や取組なども合わせて、ご理解いただければ幸いです。

市立旭川病院の基本理念と基本方針

《基本理念》

患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します。

《基本方針》

- 1 高度医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- 2 地域の病院、診療所と連携し、地域医療の向上に努めます。
- 3 救急医療を担い、市民に安心な医療を提供します。
- 4 公共の役割を担いつつ、健全な病院経営に努めます。
- 5 教育研修を充実し、人材育成に努めます。
- 6 職員が連携し信頼しあうチーム医療に努めます。

I 市立旭川病院はどんなところ？

1 どんな病院なの？

市立旭川病院は、昭和5年に旭川市立診療所として開設されて以来、道北一円の基幹病院の一つとして、旭川市民をはじめ広く道民の方々の身体の治療や心のケアのため、良質で安全な医療サービスを提供しています。特に当院は、循環器科・消化器領域をはじめとした各診療科において、高度先進医療を提供しております。

（１）地域がん診療連携拠点病院として

がん治療においては、手術・化学療法・放射線治療を柱に、消化器内科・血液内科・外科・泌尿器科などの各診療科が連携した治療を行っています。

外科・泌尿器科では、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた低侵襲手術の実績を重ね、良好な成績をあげています。また、歯科口腔外科と耳鼻咽喉科が連携し、口腔がんや頭頸部がんの手術にも取り組んでいます。血液内科では、全国でも限られた認定施設として造血幹細胞移植を行っており、地域の高度専門医療を担っております。

2023年に最新鋭の放射線治療装置「リニアック」を導入し、短時間で高精度な放射線治療を行っております。

当院では、多くのがん患者さんの診療に当たるとともに、地域のがん診療水準の向上に努めております。

（２）循環器診療について

循環器内科では、1971年に北海道では最初にCCUを設立し、24時間体制で緊急症例に対応してきました。

2005年に開設した循環器病センターでは、開設以来5,000例を超える手術実績を持つ胸部外科とともに、内科・外科の両面から循環器疾患の診断・治療・救急対応などを総合的に行い、質の高い医療を提供しております。

（３）精神科について

精神科では、公立公的病院として市内で最も多くの患者さんを受け入れており、身体疾患を合併する場合には全診療科と連携して診療にあたっております。

（４）感染症指定医療機関として

当院は、感染症指定医療機関として、危険性が高い感染症の治療のほか、早期発見、拡散防止といった重要な役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症の流行時には、状況に応じて一般診療の制限をしながら、多くの患者さんを受け入れてきました。



シャワー室を完備した感染症病棟の個室



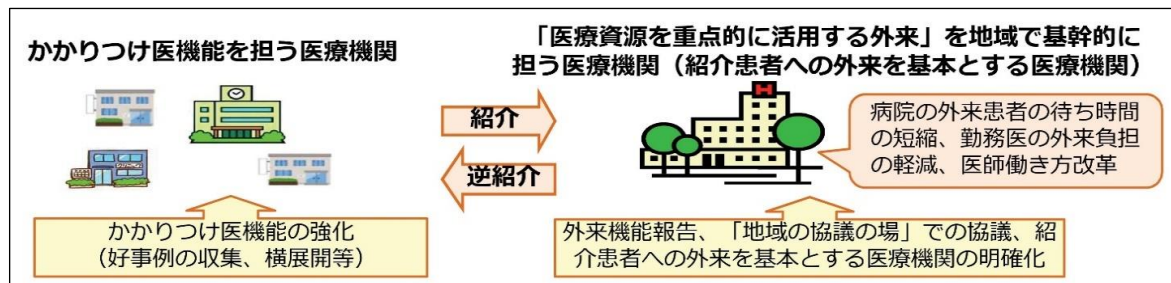
新型コロナウイルス患者への対応

（５）地域における医療連携体制について

地域でより良い医療を提供するためには、近隣の医療機関と役割を分担し協力し合うことが必要です。

当院は、地域全体の医療の質を向上させ、患者さんが必要な医療を迅速に受け入れられる体制を構築するため、令和５年８月１日に「紹介受診重点医療機関」として北海道から指定・公表されました。

今後も、地域の医療機関と連携し、限られた医療資源を最大限生かしながら、急性期病院として質の高い医療を安定的に提供することで、この地域における公立病院としての役割を果たしてまいります。



そのほか、民間の病院では実施が難しい不採算医療を担うなど、公立病院としての使命を果たしながら、市民から信頼される病院を目指しています。

2 どんな特色があるの？

感染症指定医療機関

道北で唯一の感染症病棟を保有

当院は、感染力や重篤性の観点から危険性が高いとされる第二種感染症患者を受け入れることができる感染症病棟を保有しています。

夜間急病センター

24時間365日、医療を提供

夜間急病センターを当院で運営することにより、夜間の一次救急を担い、いつでも医療を受けられる体制づくりに貢献しています。

精神科

市内の多くの身体合併症患者を受け

精神科病棟86床を有する総合病院として、身体の病状を抱えた精神疾患の患者さんに、精神科以外の診療科と連携して治療に当たっています。

小児一次救急

準夜間帯小児診療の負担軽減、利便性向上

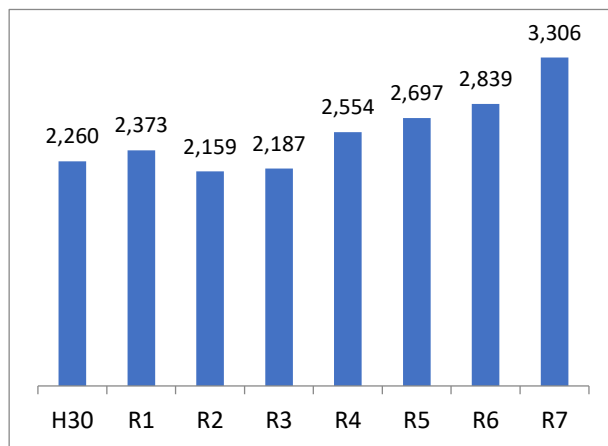
準夜間帯の小児診療は、市内の小児科医などが当院で診療を行うことで、地域の医療機関の負担を軽減するとともに、受診者の利便性を図っています。

2次救急

輪番5病院の一つとして救急車を受入れ

重症患者を休日・夜間を問わず24時間体制でケアするため、市内の5病院で当番制により診療を実施。当院は、その病院の一つとして役割を果たしています。

救急車搬入件数（件）



コロナ禍以降、特に増加傾向で、R7は3,000件を超えました。

Ⅱ 市立旭川病院の経営状況はどうか？

1 令和7年度の決算は？

当院では、主に医療の提供に係る収入と支出をまとめた「収益的収支」と、医療器械の購入や借入金などの投資に係る「資本的収支」に分けて収支状況を管理しています。

収益的収支では、物価高騰の影響などで、10億9,083万円の赤字となり、資本的収支も、借入金の返済などにより、6億2,741万円の赤字となりました。

収益的収支と資本的収支の合計である総収支に内部留保資金を加算した結果、年度末資金残高は10億5,206万円のマイナスとなっています。

【予算と決算】

		予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B-A)
収益的収支	収入 入院収益など	137億697万円	124億7,852万円	△12億2,845万円
	支出 給与費・薬品費など	146億5,786万円	135億6,935万円	△10億8,851万円
	差引	△9億5,089万円	△10億9,083万円	
資本的収支	収入 借入金など	15億9,242万円	14億1,910万円	△1億7,332万円
	支出 医療器械の購入など	22億1,972万円	20億4,651万円	△1億7,321万円
	差引	△6億2,730万円	△6億2,741万円	

※予算額は、当初予算額・補正予算額の合計額です。

【年度末資金】

前年度末資金残高	当年度資金収支	当年度末資金残高
△7億693万円	△3億4,513万円	△10億5,206万円

2 医療の提供による収支はどうだったの？

当院は、主に診療による収入により経営を行っていますが、公立病院の役割の一つである不採算医療については、その一部に旭川市からの負担金が充てられています。

費用については、主に医師・看護師・薬剤師等の人件費のほか、薬品などの購入費、建物や医療器械の維持管理費に支出しています。

医療の提供にかかわる収支決算（収益的収支）

【収入】

項 目	収入額	説 明
医業収益	100億3,148万円	入院や外来での医療行為に係る収入です。
負担金・補助金	13億2,302万円	不採算医療に関する負担金や物価上昇に伴う臨時的な補助金などです。
長期前受金戻入	9億7,696万円	減価償却費等に見合う補助金収入などです。
その他	1億4,706万円	駐車場の使用料などです。
収入合計	124億7,852万円	

【支出】

項 目	支出額	説 明
給与費	71億4,464万円	職員の人件費です。
材料費	30億5,541万円	診療に使用する薬品や診療材料などの購入費です。
経費	21億5,401万円	建物・医療器械の維持管理費や患者さんの給食や窓口業務の委託料などです。
減価償却費等	9億3,743万円	建物や医療器械などの使用に伴う資産価値減少分です。
研究研修費	4,608万円	医療の質を保つために必要な医師・看護師・薬剤師等の研修費などです。
支払利息	3,553万円	借入金の返済利子です。
その他	1億9,625万円	税務署に納める消費税などです。
支出合計	135億6,935万円	

3 器械の購入などの設備投資はどうだったの？

当院は、日々進歩する医療技術に対応し、高度な医療ニーズに応えるため、医療器械の整備・更新を毎年度行っています。また、老朽化した施設の改修を計画的に実施することで、安全で安心な院内環境の確保に努めています。

令和7年度は、最新の画像処理・AI技術などにより病気の早期発見や正確な診断に貢献する最新鋭の「超電導磁気共鳴診断装置(MRI)」や、胸部外科・血管外科などの手術時に必要不可欠な「移動式血管造影装置」の更新や、入院病棟の空調環境を向上させるため「入院病棟冷却塔」の更新工事などを行いました。



超電導磁気共鳴診断装置(MRI)



移動式血管造影装置



入院病棟冷却塔更新工事

設備投資にかかわる収支決算（資本的収支）

【収入】

項 目	収入額	説 明
企業債	5億3,850万円	医療器械等を整備するための借入金です。
一般会計負担金	8億7,641万円	借入金返済等のための旭川市の負担金です。
補助金	419万円	医療器械を整備するための補助金です。
収入合計	14億1,910万円	

【支出】

項 目	支出額	説 明
建設改良費	5億7,930万円	
建物	2億8,099万円	建物の工事費です。
器械備品	2億9,831万円	医療器械の購入費です。
企業債償還金	14億5,581万円	借入金の返済元金です。
投資	1,140万円	看護師等奨学金の貸付金です。
支出合計	20億4,651万円	

※収入と支出の差額6億2,741万円については、一時借入金等で補っています。

4 令和7年度は市立病院で どんなことがあったの？

(1) 16年ぶりに整形外科病棟を再開

4月に常勤医1名と出張医による診療体制を整え、16年ぶりに整形外科病棟を再開しました。地域の医療需要への対応や救急医療体制の強化を図り、病院経営・収益の改善に努めました。



(2) 紹介受診のWEB予約システム導入

令和7年10月に、紹介件数の増加および患者サービスの向上を図るため、「WEB予約システム」を導入しました。これにより、地域の医療機関から当院への紹介手続きが効率化されたほか、患者自身がスマートフォンから受診希望日を指定できるようになりました。



(3) 健診事業の充実

健診事業の充実を目的として、これまでもWEB予約をすでに実施しているほか、令和7年度は新たにアレルギー検診およびレディースドックを開設し、市民の健康管理と疾病予防を支援する体制をさらに強化しました。

(4) 使用料及び手数料条例の改正（令和8年6月1日施行）

物価高騰や人件費の上昇によるコスト増に対応し、公的医療機関としての機能を将来にわたり維持するため、入院時の各種個室料金及び、病院で発行する各種証明書や診断書等の料金を改定しました。

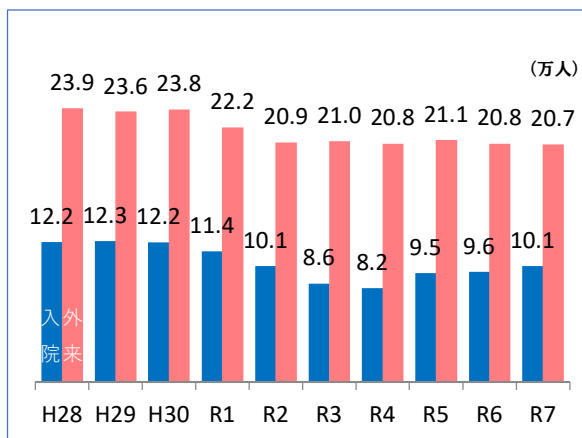
(5) 病床数の見直し

地域の医療需要に見合った適正な病床規模を検討し、病床数を481床から365床に見直しました。急性期医療を維持しながら、効率的で持続可能な医療体制の構築を進めています。

項目	令和6年度	令和7年度	増減
一般	372	270	△ 102
精神	100	86	△ 14
感染	9	9	0
計	481	365	△ 116

5 経営状況の推移はどうか？

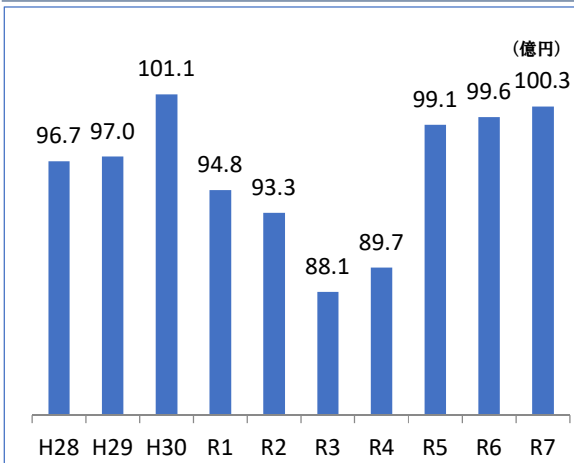
延べ患者数の推移



令和7年度は入院と外来を合わせて年間約30万人の患者さんの診療に当たりましたが、依然として患者数は新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻っておらず横ばい傾向にあります。

患者さんの減少に合わせて、コスト削減の努力をしていますが、厳しい経営状況が続いています。

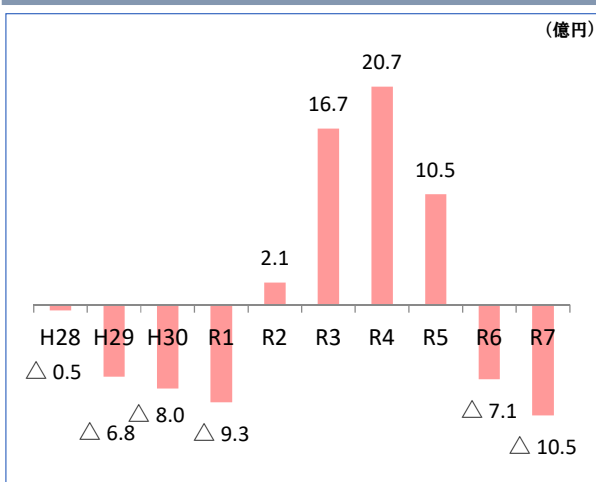
医業収益の推移



令和7年度は、整形外科病棟の再開などにより、診療による収入は前年度からわずかではありますが増加しました。

しかし、物価高騰や労務単価の上昇などにより医業費用も増加しており、地域に必要な医療を提供するためには、安定した運営が必要なため、健全な経営に向けて改善に努めています。

資金残高の推移



一般家庭でいう貯金額に当たる資金残高は、最近の厳しい経営状況から大きく減少し、令和6年度に続いて、令和7年度も残高がマイナスとなり、資金不足の状態となりました。

これ以上悪化すると、自律的な経営に支障をきたすため、引き続き改善に努めます。

令和7年度 市立旭川病院
業 務 ・ 決 算 報 告
～市立病院ってどんな病院なの？～

発行：令和8年（2026年）9月

編集：市立旭川病院事務局経営企画課

070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号

TEL：0166-24-3181 FAX：0166-27-8505

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/hospital/>